

# Evaluating IT Workforce Needs

ITワークフォースのニーズを評価する

日本サマリー

September 2017



CompTIA®

---

# 調査について

CompTIA 2017 *Evaluating IT Workforce Needs* (ITワークフォースのニーズを評価する) は、ITワークフォース (人材) に関する様々な調査の基盤となり、CompTIAの主な顧客ベースである既存および潜在的な認定資格ホルダーの体験をより良く理解することを目的に実施されました。本調査は、IT認定資格やトレーニング、キャリアの原動力 (ドライバー)、課題、機会、トレンドといった重要な要素を詳しく調査できるようデザインされています。

本調査の定量的情報は、2017年6月から8月に実施されたオンラインアンケートより収集されています。参加者総数は1,851名で、CompTIA認定資格の受験者 (N数1,601) および第三者委員会を通じて取得した米国のITプロフェッショナル (N数250) で構成されます。本調査のサンプル数のうち、主な対象者として CompTIA A+、Network+、Security+認定資格受験者が含まれます。調査対象となった国は、以下を含みます。

- カナダ (N数=311 | June 8 – 23, 2017)
- 日本 (N数=415 | July 2 – 19, 2017)
- メキシコ (N数=119 | July 28 – August 11, 2017)
- イギリス (N数=186 | June 8 – 23, 2017)
- 米国 (N数=820 | June 6 – 18, 2017)

質問の誤解を最小限にするため事前策が講じられましたが、調査では文化的な違いが存在し、5ポイントによる満足度を評価する質問など特定の質問に対する回答に影響を与えることがわかっています。本調査の閲覧者は、各国の結果を比較する際、特に日本サマリー全体を通しては、こうした点を念頭に置く必要があります。

本資料は、日本における調査結果を強調したもので、回答者の多くはCompTIA認定者です (94%)。日本の収集結果の信頼度は95%で、プラスマイナス 4.8%のサンプリング誤差としています。サンプリング誤差は、データのサブグループに大きく生じます。どのような調査でもサンプリング誤差は、起こり得るエラー原因の一つに過ぎません。非サンプリング誤差を正確に計算することはできませんが、影響を最小限に抑えるため、アンケートの設計や収集、データ処理におけるすべての段階で予防措置が講じられています。

CompTIAは、本調査の全ての内容に責任を負うものとします。調査に関するいかなる質問はCompTIA Research & Market Intelligenceのスタッフまでお問合せください。 [research@comptia.org](mailto:research@comptia.org)

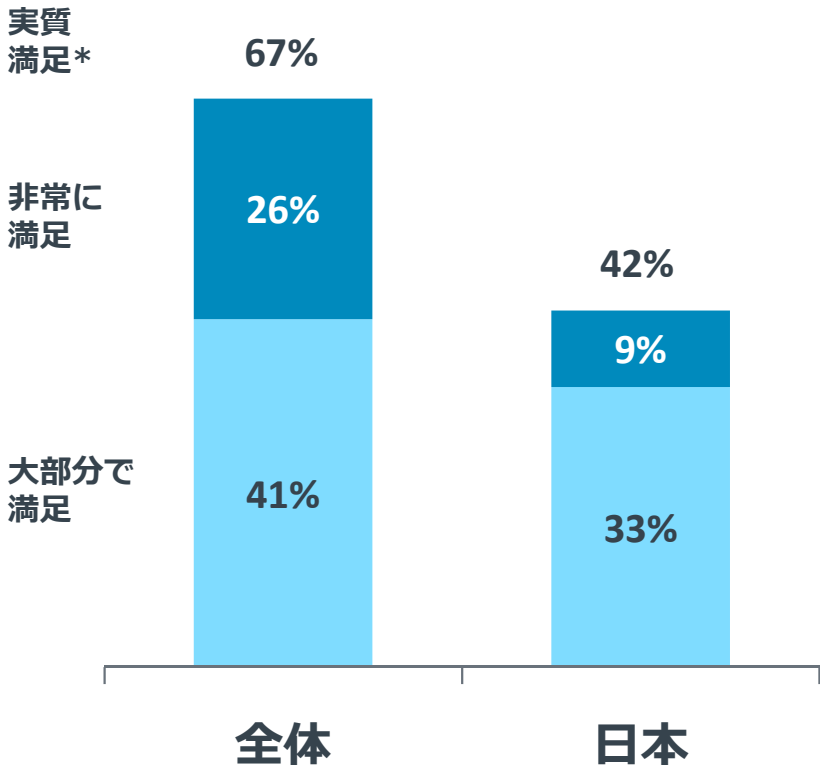
CompTIAは Insights Associationのメンバーであり、国際的に認められた Code of Standardsを順守しています。

# サマリー

- 日本のITプロフェッショナルの約10人に4人が、仕事に満足していると回答しています（42%：非常に満足+大部分で満足）。これは、全体のデータ（カナダ+日本+メキシコ+米国）の実質67%よりも低い数字でした。（これは文化的な違いの表れと言えるかもしれません。）
- ITプロフェッショナルに共通する主な特徴として、テクノロジーに対する情熱、（自身の）能力とテクノロジーとの合致、継続的学習に対する意欲、チャレンジに対する意欲があります。
- ITプロフェッショナルは、職務を効率的にこなすため、特にプロフェッショナル開発のためのリソースや、キャリアパスのためのガイダンスといったサポートを必要としています。
- ITプロフェッショナルの10人に1人が、5年先のキャリアパスについて「思い描くパスがある」と回答しています（11%）。プロフェッショナル協会、団体またはアルムナイ協会、ビジネスやテクグループなどへの関与に関係なく、多くの人たちはそのようなグループへの参加が、ITキャリアに役立つであろうと回答しています。
- ITには、キャリアを始める人、転向する人、キャリアアップを目指す人に対し、様々な分野が存在します。ITプロフェッショナル固有の特性として、テクノロジーを駆使して他者を助ける仕事、といった他者の支援があることがわかりました。また「理想の仕事」として、顧客満足の獲得、社会貢献、企業成功の手助けがあがりました。
- 日本のITプロフェッショナルは、プロフェッショナル協会や団体などのグループから得られるベネフィットとして、何かの一助となる機会、テク指導者から話を聞く機会、ネットワーキングをあげています。また4分の1近くが、認定資格/認定情報のアクセスや割引をあげています。
- eラーニングコースは、テクニカルトレーニングを受講する際の最も好ましい方法であると、日本のITプロフェッショナルの61%が回答しています。また、テキストブックや実践テスト/アセスメントは、3分の1以上が好ましい方法としてあげています。さらに、10人に9人が、知識を確認するためにもトレーニング後に試験を実施することが重要という意見に同意しています（実質86%）。

# ITプロフェッショナルの仕事に対する満足度

## 全体の仕事満足度

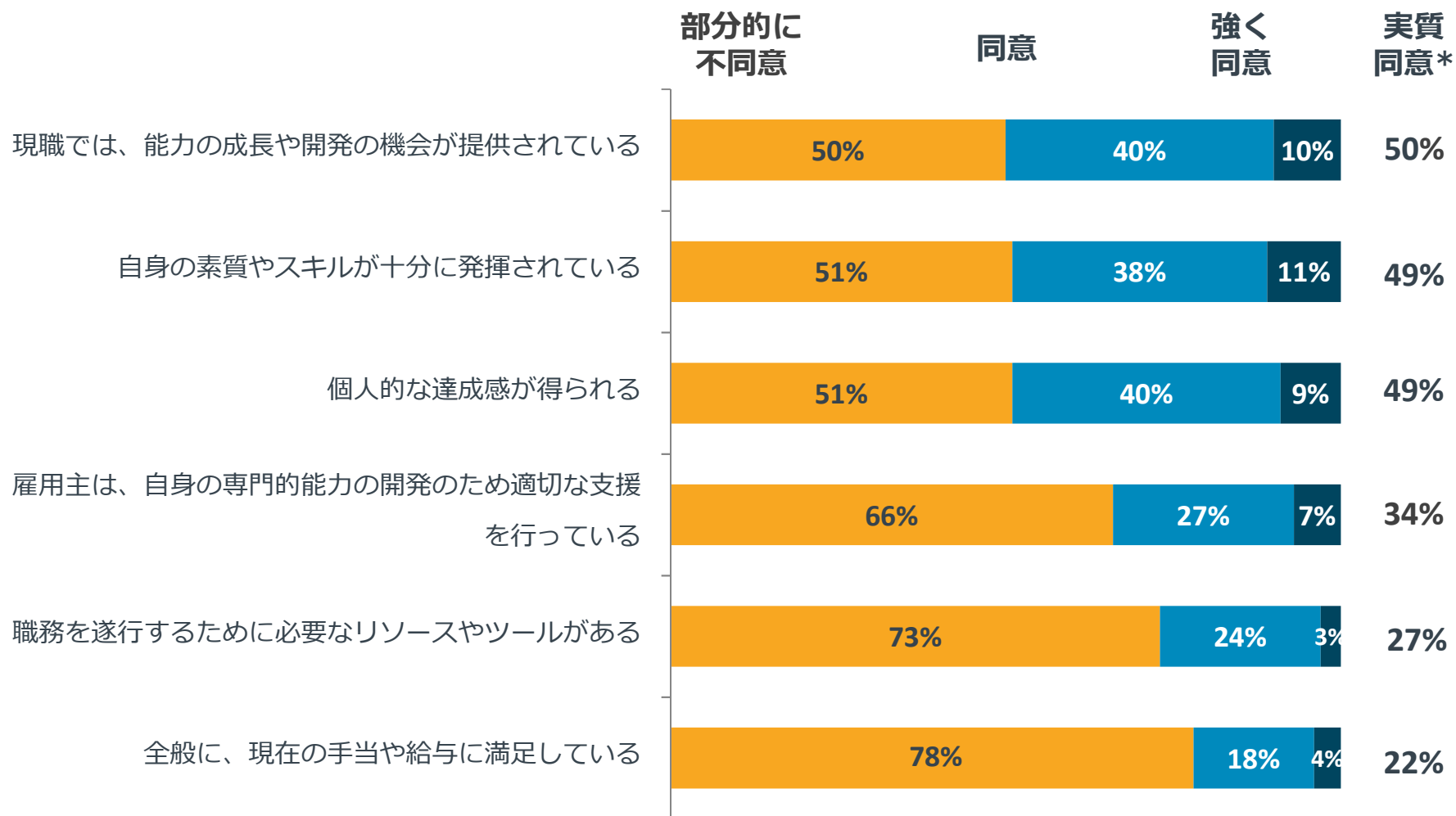


### 日本のITプロフェッショナルの仕事に対する満足度：

- 9% 非常に満足
- 33% 大部分で満足
- 46% やや満足 / やや不満
- 9% 大部分で不満
- 3% 非常に不満

\*実質満足: 非常に満足 + 大部分で満足  
日本と全体的な結果を比較した際、文化的な違いを考慮する必要があります

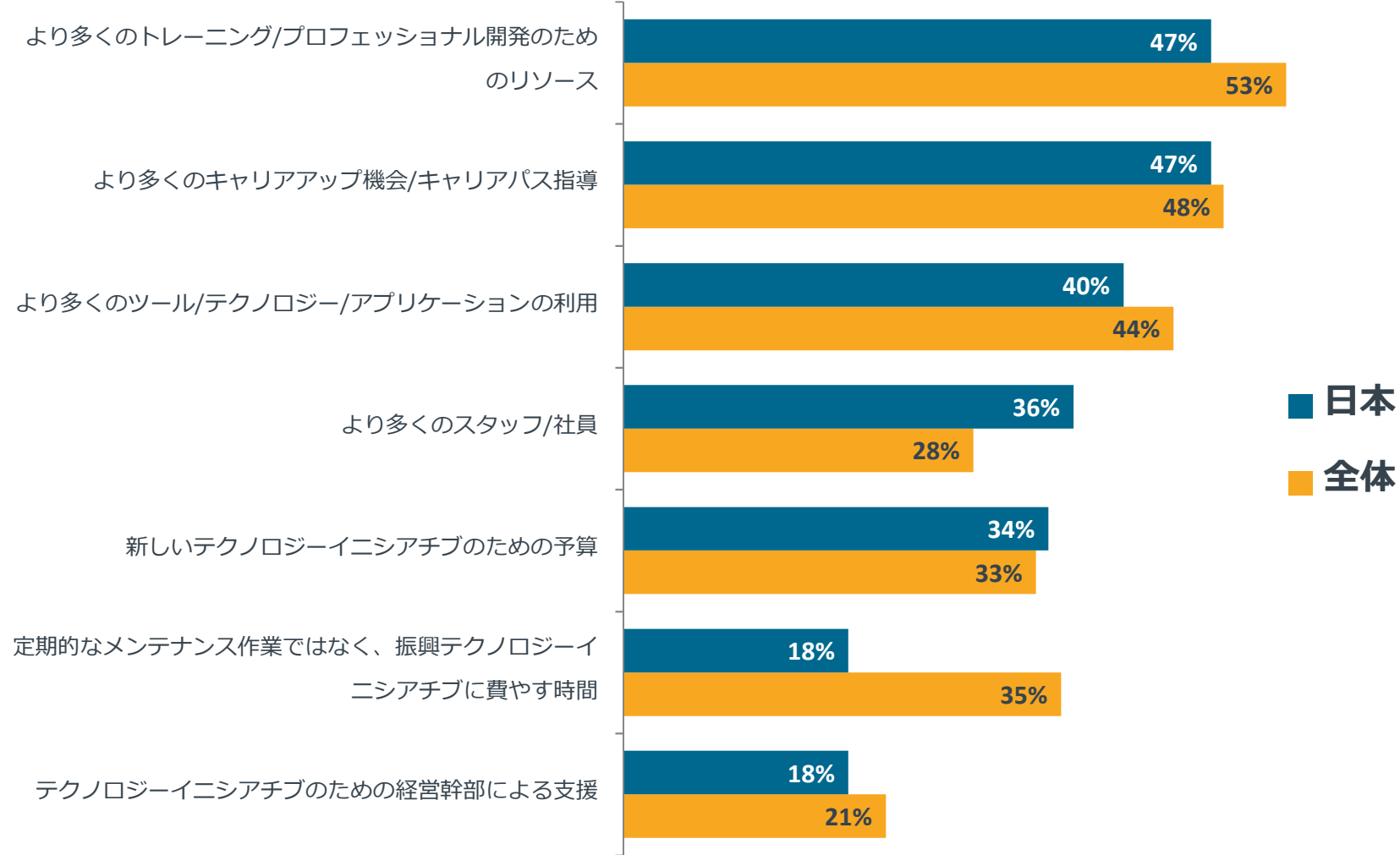
# 多くのITプロフェッショナルが、 専門的能力の開発となるサポートを必要としている



\*実質同意: 強く同意+ 同意

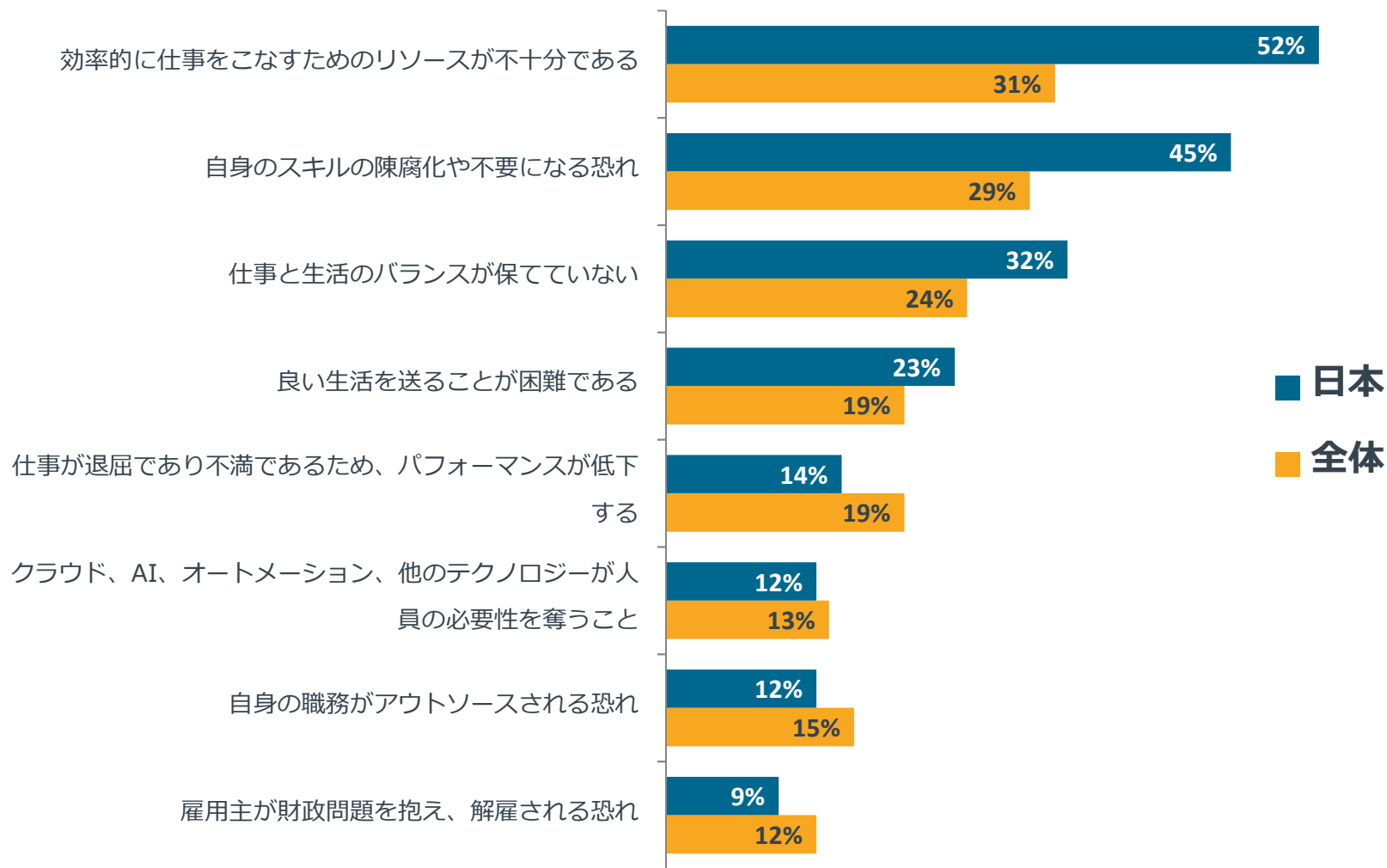
# ITプロフェッショナルが特定する 職務パフォーマンスの改善を促すものとは

トレーニングリソース、キャリア構築につながるリソースが上位を占める。最新テクノロジーの利用もあげられた。



# ITプロフェッショナル間に見られる、職務上の懸念

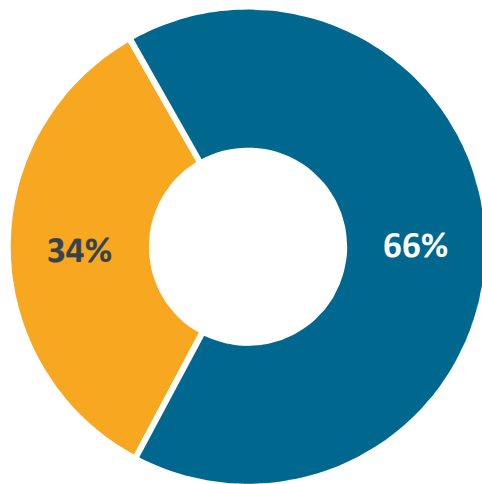
日本のITプロの93%が、現在の職務における懸念として以下の少なくとも一つをあげています。



# プロフェッショナル協会、団体などへの関与

日本では、ITプロのわずか3分の1が、プロフェッショナル協会、団体またはアルムナイ（卒業生や元社員で構成される）協会、ビジネスやテクグループ/コミュニティに参加している。（34% 日本 vs. 48% 全体のデータ）

## グループへの関与



■ 関与/参加がある ■ 関与/参加がない

現在の関与に関係なく、多くの特に日本のITプロフェッショナルは、プロフェッショナルグループへの参加が、ITキャリアに役立つものと考えています。

**73% はい** (同意 + おおむね同意)

**19% やや同意**

**3% そう思わない**



# ITプロフェッショナルがイベントに 参加した/参加しなかった主な理由

より良い学び、オンラインより有意義、ネットワーキング目的、開催地が、対面で参加する主な動機。一方、時間がない、必要費用、開催地が遠いなどが、過去12か月間において、参加しなかった主な理由としてあげられました。

## 参加要因

1. より良い学び/知識経験 (68%)
2. オンラインと比べ、対面の方がより有意義である (34%)
3. より良いネットワーキングの機会 (33%)
4. 近隣イベントであったため参加しやすかった (31%)
5. 望ましい開催場所であった (21%)

## 阻害要因

1. 時間がない/スケジュールが合わない (53%)
2. 必要となる費用 (31%)
3. 近隣にそうしたイベントがない (30%)
4. 交流することに興味がない (17%)
5. オンラインでの情報収集やネットワーキングで十分 (6%)

過去1年間で、対面のカンファレンス/イベント/ミーティングに参加したITプロはわずかでした。（参加の回答 24% 日本 vs. 33% 全体）

# ITプロフェッショナルが参加を通して評価する点は？

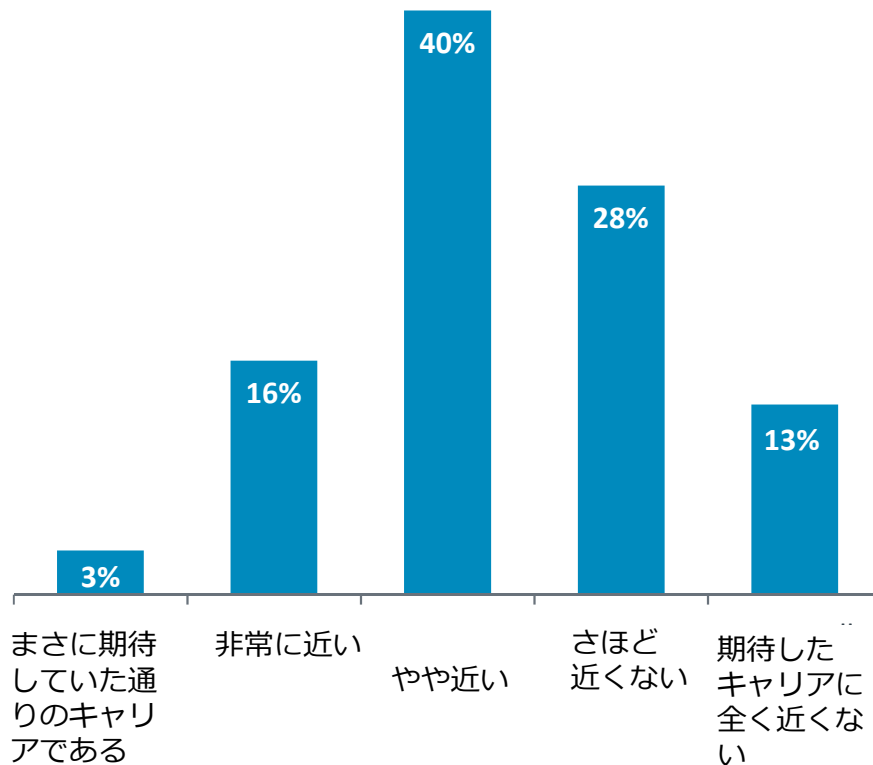
日本のITプロは、プロフェッショナル協会や団体などのグループから得られるベネフィットとして、何かの一助となる機会、テク指導者の話を聞く機会、ネットワーキングをあげています。

得られる最大のベネフィットとは？	Total	国別				
		カナダ	日本	メキシコ	イギリス	米国
ネットワーキング/ 仲間とのラーニングや協業	58%	63%	33%	57%	62%	67%
キャリアガイダンス/ 雇用機会や関連リソース	41%	47%	17%	63%	48%	47%
テク指導者/ テク思想リーダーの話が聞ける機会	38%	34%	35%	49%	41%	39%
認定資格/認証情報のアクセスや割引	35%	40%	30%	58%	37%	33%
何かの一助となる機会	33%	33%	39%	43%	34%	30%
トレーニング教材/eラーニングの利用や割引	33%	38%	22%	48%	37%	33%
継続教育の利用や割引 (CEUs)	28%	28%	15%	36%	27%	34%
近隣イベント/交流	27%	28%	18%	33%	29%	30%

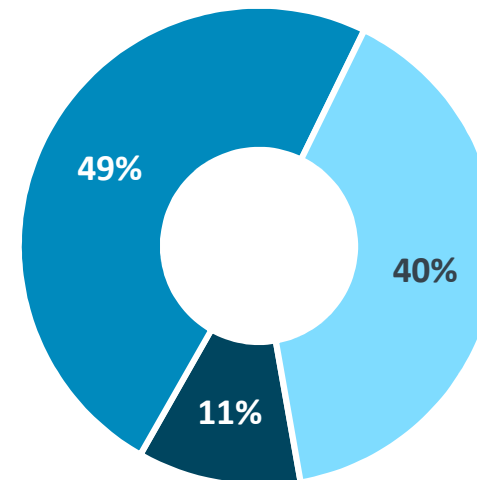
# キャリアパスアセスメント

現在のキャリアについてたずねたところ、期待していたキャリアに「非常に近い」または「期待通り」と回答した日本のITプロは、わずか10人に2人でした（実質19%）。5年先のキャリアパスについてたずねたところ、多くが「はっきりしたキャリアパスがない」と回答しています（実質89%）。

現在に至るまでのキャリア  
(現実 vs. 期待)



今後のキャリアパス



- 思い描くキャリアパスがある
- ある程度のキャリアパスがあるが、完全ではない
- 現時点でははっきりしたキャリアパスはない

# ITキャリアを目指した主な理由

テクノロジーに関する能力や情熱が、日本のITプロがITキャリアを目指した理由にあがりました。

## 全体

1. 自身のスキル/能力とテクノロジーの合致 (60%)
2. テクノロジーに対する情熱/関心の合致 (55%)
3. 仕事のチャンスの多さ/安定した雇用 (33%)
4. 実生活に起こる問題の解決に、テクノロジーを用いることができるから (32%)
5. 高い給与/収入の可能性 (27%)

---

## 日本

1. 自身のスキル/能力とテクノロジーの合致 (46%)
2. テクノロジーに対する情熱/関心の合致 (43%)
3. 仕事のチャンスの多さ/安定した雇用 (24%)
4. 実生活に起こる問題の解決に、テクノロジーを用いることができるから (23%)
5. 非ITキャリアから、結果的にITの職務に行き着いた (17%)

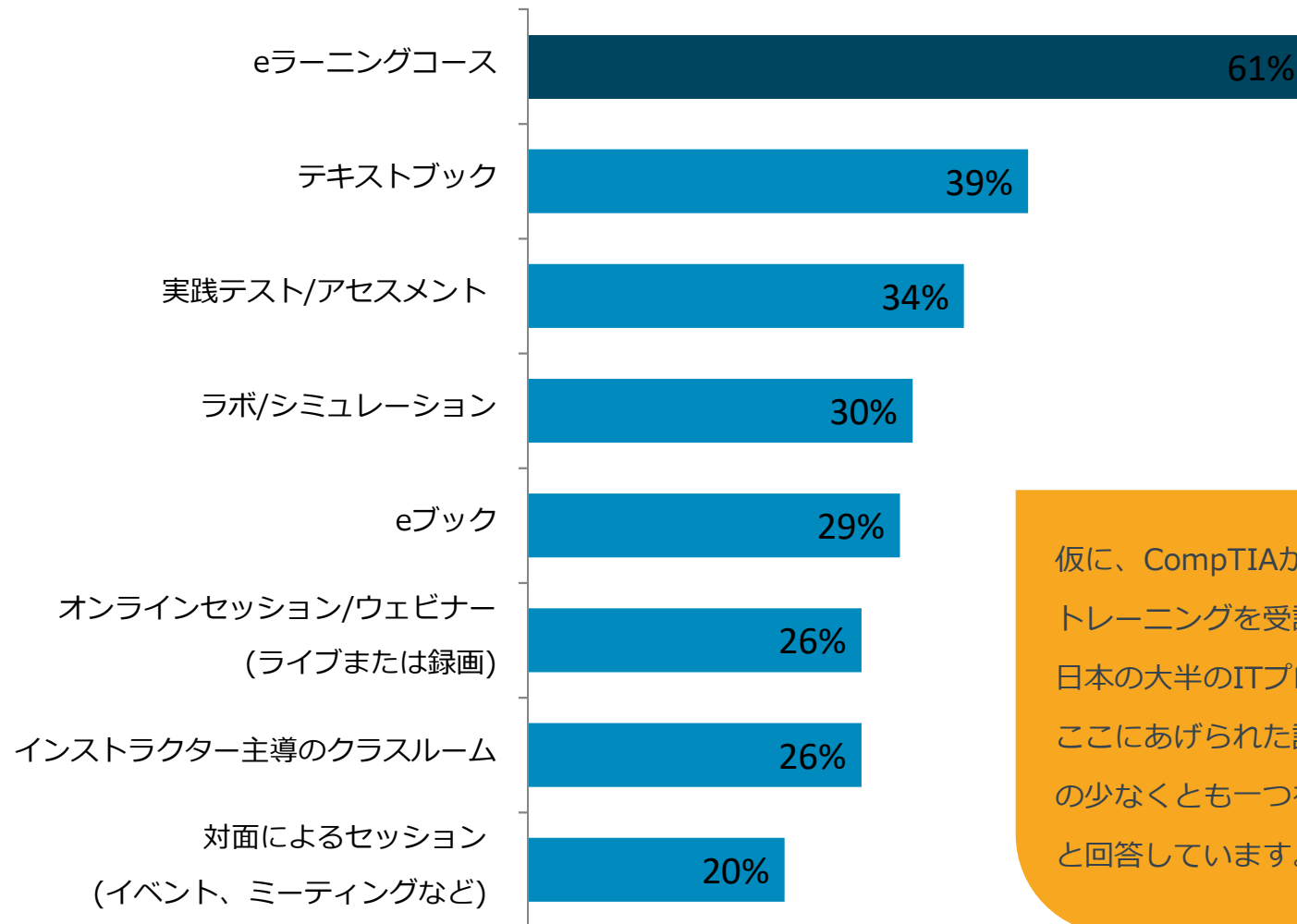
# ITキャリアを目指した主な理由

## 国別データ

ITキャリアを目指された、またはITキャリアに行き着いた主な理由	Total	国別				
		カナダ	日本	メキシコ	イギリス	米国
自身のスキル/能力とテクノロジーの合致	60%	67%	46%	59%	63%	64%
テクノロジーに対する情熱/関心の合致	55%	71%	43%	68%	68%	52%
仕事のチャンスの多さ/安定した雇用	33%	34%	24%	22%	24%	40%
実生活に起こる問題の解決に、テクノロジーを用いることができるから	32%	35%	23%	57%	31%	33%
高い給与/収入の可能性	27%	20%	12%	26%	24%	38%
非ITキャリアから、結果的にITの職務に行き着いた	20%	18%	17%	15%	21%	23%
家族、教師、キャリアカウンセラー、メンターからのアドバイス	13%	12%	4%	16%	14%	18%
テクノロジー指導者（ゲーツ、ジョブズ、サーフ、ザックバーグなど）の影響	5%	4%	2%	10%	4%	7%

# 望ましいトレーニング方法

明確なキャリアパスの有無にかかわらず、日本の大部分のITプロ（実質 86%）は、追加的なトレーニングや教育が必要であると考えています。そのうち、60%が「絶対に必要である」と回答しています。

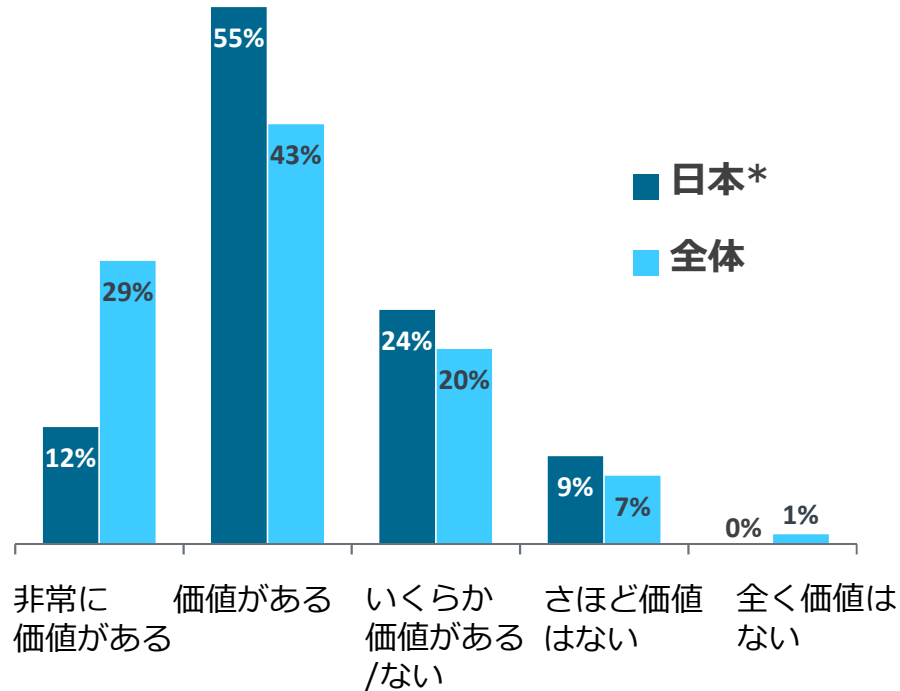


仮に、CompTIAからテクニカルトレーニングを受講する場合、日本の大半のITプロが（96%）ここにあげられた試験対策方法の少なくとも一つを使用したいと回答しています。

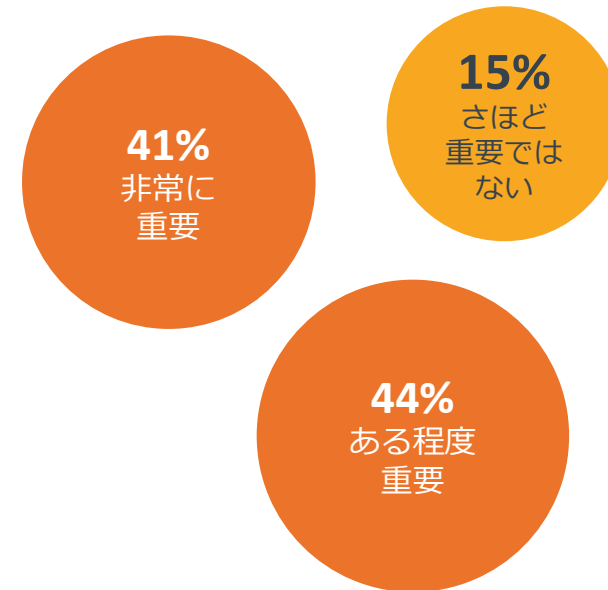
# IT認定資格の価値

ITマネジャーの3分の2が、スキル評価や、求職者の評価という観点において、IT認定資格は価値があると評価しています（実質67%）。さらに、日本のITプロの実質85%が、トレーニング後に試験を実施することは重要と考えています（vs. 実質89% 全体データ）。

### IT認定資格の価値



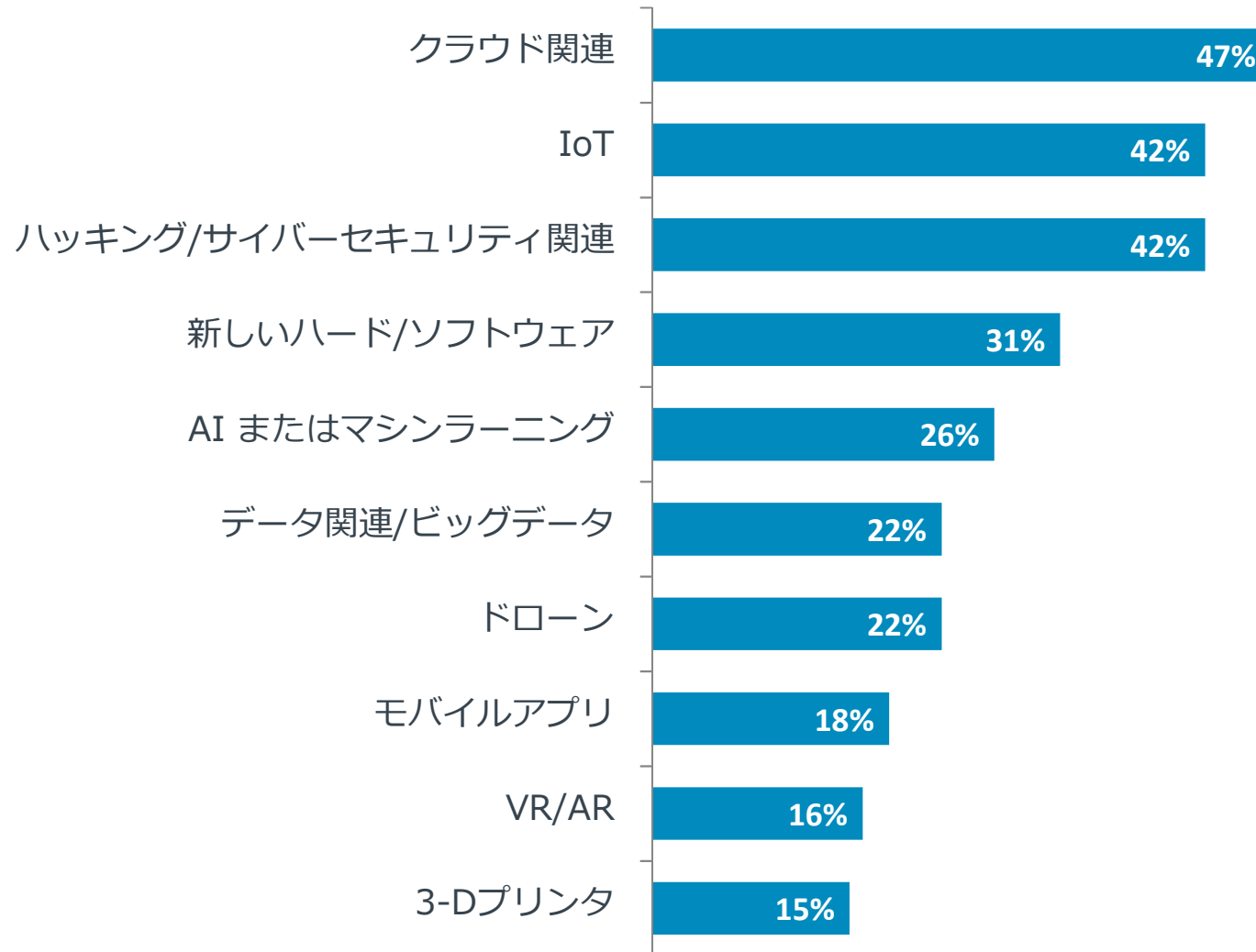
### トレーニング後に試験を実施することに対するITプロの意見 - 日本



\*注意：ITマネジャーによるデータに基づく

# ITプロフェッショナルに関心の高い新興分野

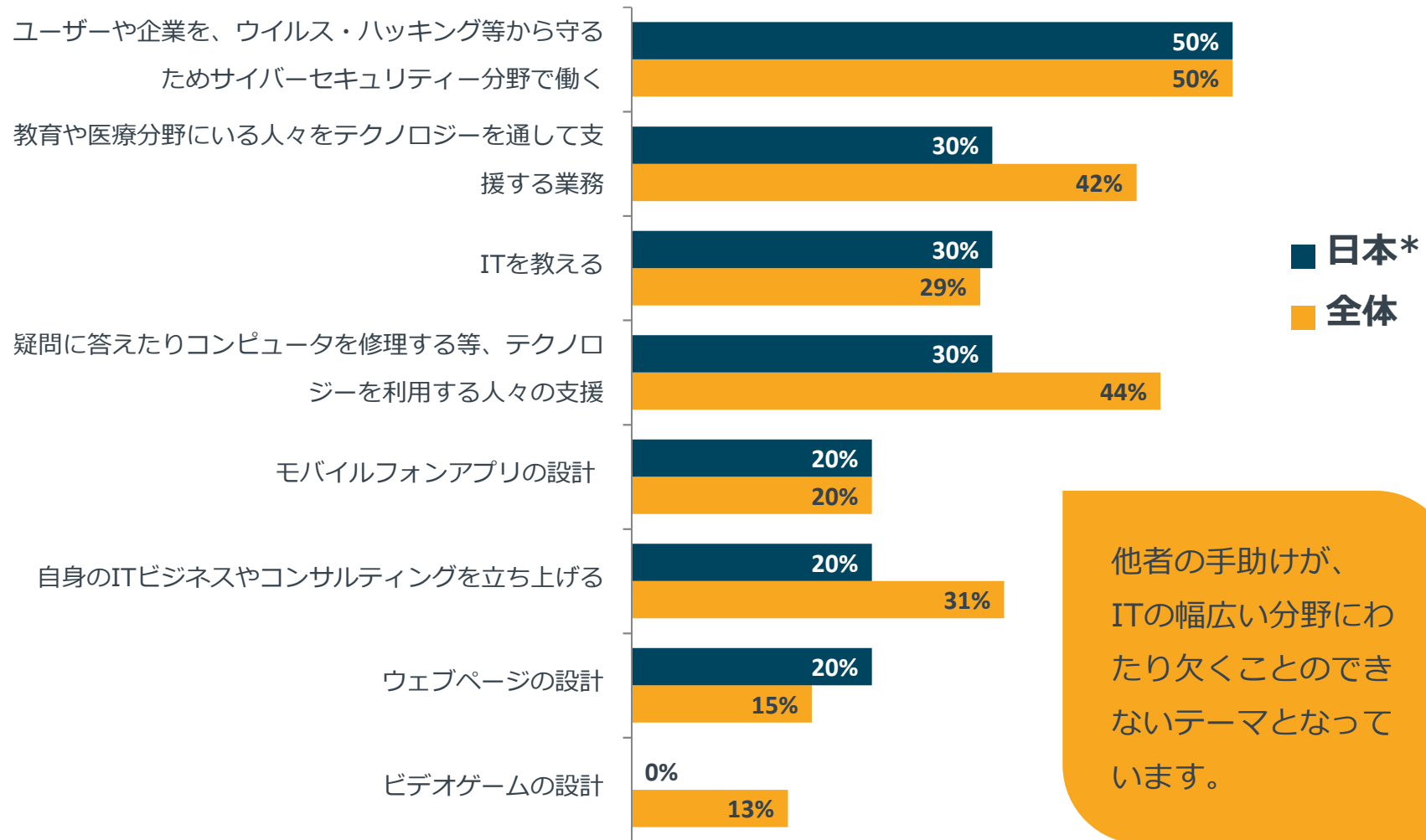
大多数のITプロが、より新しいテクノロジーへの取り組みに意欲的であることがわかりました（日本のITプロの95%が、少なくとも一つの項目を選択しています）。





# 他分野にわたる将来のITプロのキャリア

将来のITプロ（学生および現在非雇用の人）の半数が、サイバーセキュリティの分野で働く可能性があると回答しています（50% - 全体データ）。



\*注意: 学生/非雇用者によるデータに基づく

# ITプロフェッショナルが描く「理想の仕事」とは

サンプリングコメント

## 仕事と生活のバランス/優れた職場環境

- 「同僚や顧客との関係性が良好であること。IT職に関係なく、笑顔になれる仕事」
- 「スタッフが団結して作業できる仕事。スタッフ間の不公平のない職場」
- 「仕事とプライベートの両方を豊かにするバランスの良い余暇と給与」
- 「生活と仕事の均衡が保たれる必要がある」

## 顧客満足

- 「お客様に確かなソリューションを提供できるスキルと環境を構築した上で、顧客満足を得ることができる」
- 「顧客と自身の両者が、楽しく仕事することができる」
- 「顧客満足の獲得および、それに見合う給与が得られること」
- 「お客様に満足のいくサービスの提供」

## マネジメントのポジション/成長の余地

- 「ディレクタや経営者としての仕事」
- 「常に最先端技術に触れることができる開発分野におけるマネジメント業務」
- 「ITビジネスやプロジェクトマネジメントにおける多くの参画」
- 「インフラストラクチャエンジニアとして、新しいスキルや知識を獲得。一方で、セールスエンジニアとして売り上げや、顧客満足を向上」

## 達成感

- 「技術者として誇りに思える仕事」
- 「達成感を分かち合うことが大事」
- 「プロフェッショナルとしての価値を提供できる仕事」

## 社会貢献

- 「自身の能力で社会に貢献することができる」
- 「満足のいく仕事ができ、それが顧客満足や社会貢献につながる」

# 調査参加者のプロフィール

## 雇用状況

フルタイム雇用	95%
パートタイム雇用	1%
自営業	2%
学生	1%
無職	2%

## 所属組織の人員数

1 to 4	3%
5 to 9	3%
10 to 49	6%
50 to 99	5%
100 to 499	25%
500 to 999	11%
1,000+	47%

## 所属組織の主な業職

情報テクノロジー (IT)	81%
教育/トレーニング	4%
専門サービス	4%
製造業	3%
小売/卸売業	2%
軍部	2%
政府機関	1%
金融/銀行/保険	1%
ヘルスケア/医療	1%
その他営利組織	1%
その他非営利組織	1%

## 職務

フィールドサービス/サポート技術者	36%
IT サポートスペシャリスト/ヘルプデスク	16%
ネットワークエンジニア/ネットワーク管理者/システムエンジニア	16%
マネジャー/チームリーダー/ディレクター/CIO/CTO	8%
トレーナー/教師/インストラクター	5%
セキュリティスペシャリスト/セキュリティエンジニア/セキュリティアナリスト	4%
ソフトウェアディベロッパ/アプリディベロッパ/プログラマー	2%
データベース管理者/データスペシャリスト	0%
その他IT職	4%
上記のいずれでもない/IT業務ではない	8%